

学校コード F113110102773

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

事前伺い

注2

東京農工大学 工学部 生命工学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人東京農工大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務・経営企画部総務課

職名・氏名 副課長 マツモト ケンセイ 松本 健生

電話番号 042-367-5505

（夜間） 042-367-5505

e-mail houki@ml.tuat.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

工学部

<生命工学科>		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	・・・・・・・・・・・・・・・・	18
4. 既設大学等の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	19
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	・・・・・・・・・・・・・・・・	35
7. その他全般的事項	・・・・・・・・・・・・・・・・	36
<別添資料>		
資料1 東京農工大学グローバル教育院運営規則	・・・・・・・・・・・・・・・・	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 東京農工大学

(2) 大学名

東京農工大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒184-8588：東京都小金井市中町二丁目24番16号
〒183-8538：東京都府中市晴見町三丁目8番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学 長	(オオノ ヒロユキ) 大野 弘幸 (平成29年4月)	(チバ カズヒロ) 千葉 一裕 (令和2年4月)	前学長の任期満了に伴う学 長の変更(2)
学 部 長	(ミサワ カズヒコ) 三沢 和彦 (平成29年4月)	(ナカムラ ノブフミ) 中村 暢文 (令和4年4月)	前学部長の辞任に伴う学部 長の変更(4)
学科長等	(ヨオダ マサフミ) 養王田 正文 (平成31年4月)	(ナカザワ ヤスモト) 中澤 靖元 (令和4年4月)	前学科長の任期満了に伴う 学科長の変更(4)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学部 生命工学科 学士(工学)	工学関係	4 年	81 人	11 人	346 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	81 []	() []	81 []	() []	81 []	(11) []	81 []	(11) []	1.04倍	-	
志願者数	() []	() []	420 [10]	- [-]	356 [5]	- [-]	469 [11]	- [-]	403 [10]	- [-]			
受験者数	() []	() []	290 [10]	- [-]	228 [5]	- [-]	317 [10]	- [-]	282 [8]	- [-]			
合格者数	() []	() []	98 [2]	- [-]	96 [0]	- [-]	96 [6]	- [-]	100 [2]	- [-]			
B 入学者数	() []	() []	84 [0]	- [-]	88 [1]	- [-]	81 [2]	- [-]	88 [3]	- [-]			
入学定員超過率 B/A			1.03		1.08		1.00		1.08				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	84 [-] (-)	- [-] (-)	88 [1] (-)	- [-] (-)	81 [1] (-)	- [-] (-)	88 [1] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		/		82 [-] (-)	- [-] (-)	86 [1] (1)	- [-] (-)	82 [1] (1)	- [-] (-)	
3年次					/		/		/		93 [1] (-)
4年次	/		/								/
計					[] ()		84 [-] (-)		170 [1] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	84人	2人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	2人	0人	進路変更(1人)、他大学入学(1人)
令和2年度	170人	3人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	3人	0人	他大学入学(3人)
令和3年度	260人	1人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	1人	0人	他大学入学(1人)
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
令和4年度	357人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		6人		6人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{84} = \boxed{2.38} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{170} = \boxed{1.76} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{260} = \boxed{0.38} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{357} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
工学部 共通 専門科目	研究インターンシップ	4②		2		9	14	1						
	工学部特別講義 I	1-2-3-4①②③④		2									兼1	
	工学部特別講義 II	1-2-3-4①②③④		1									兼1	
	小計(3科目)	—	0	5	0	9	14	1	0	0			兼1	
	国際科目	Japanese Science and Technology	3-4③		2									兼1
	International Cooperation of Science and Technology	3-4③		2										兼1
	Engineering for Sustainable Society	3-4①		2										兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0				兼2
	小計(6科目)	—	0	11	0	9	14	1	0	0				兼3
	合計(149科目)	—		89	159	6	9	15	1	5	0			兼94
卒業要件及び履修方法														
必修科目89単位、専門科目の選択必修科目から10単位以上を修得し、130単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:56単位(年間))														

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
工学部 共通 専門科目	研究インターンシップ	4②		2		14	7	1						
	工学部特別講義 I (環境科学 I)	1-2-3-4①②③④		2									兼1	
	工学部特別講義 II	1-2-3-4①②③④		1									兼1	
	小計(4科目)	—	0	7	0	14	7	1	0	0			兼2	
	国際科目	Japanese Science and Technology	3-4③		2									兼1
	International Cooperation of Science and Technology	3-4③		2										兼1
	Engineering for Sustainable Society	3-4①		2										兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0				兼2
	小計(7科目)	—	0	13	0	14	7	1	0	0				兼4
	合計(150科目)	—		77	161	6	14	8	1	4	0			兼94
卒業要件及び履修方法														
必修科目77単位、専門科目の選択必修科目から10単位以上を修得し、130単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:56単位(年間))														

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
工学部共通 専門科目	共通科目	研究インターンシップ	4②		2		9	14	1				兼1
		工学部特別講義Ⅰ(環境科学Ⅰ)	1-2-3-4①②③④	2									兼1
		工学部特別講義Ⅰ	1-2-3-4①②③④	2									兼1
		工学部特別講義Ⅱ	1-2-3-4①②③④	1									兼1
	小計(4科目)		—	0	7	0	9	14	1	0	0		兼2
	国際科目	Japanese Science and Technology	3-4③		2								兼1
		International Cooperation of Science and Technology	3-4③		2								兼1
		Engineering for Sustainable Society	3-4①		2								兼1
	小計(3科目)		—	0	6	0	0	0	0	0	0		兼2
	小計(7科目)		—	0	13	0	9	14	1	0	0		兼4
合計(150科目)		—	77	161	6	9	15	1	4	0		兼98	
卒業要件及び履修方法													
必修科目77単位、専門科目の選択必修科目から10単位以上を修得し、130単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:56単位(年間))													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
工学部共通 専門科目	共通科目	研究インターンシップ	4②		2		9	14	1				兼1
		工学部特別講義Ⅰ(環境科学Ⅰ)	1-2-3-4①②③④	2									兼1
		工学部特別講義Ⅰ	1-2-3-4①②③④	2									兼1
		工学部特別講義Ⅱ	1-2-3-4①②③④	1									兼1
	小計(4科目)		—	0	7	0	9	14	1	0	0		兼2
	国際科目	Japanese Science and Technology	3-4③		2								兼1
		International Cooperation of Science and Technology	3-4③		2								兼1
		Engineering for Sustainable Society	3-4①		2								兼1
	小計(3科目)		—	0	6	0	0	0	0	0	0		兼2
	小計(7科目)		—	0	13	0	9	14	1	0	0		兼4
合計(150科目)		—	77	161	6	9	15	1	4	0		兼98	
卒業要件及び履修方法													
必修科目77単位、専門科目の選択必修科目から10単位以上を修得し、130単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:56単位(年間))													

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
新入生科目	新入生科目Ⅰ	アカデミックライティング入門	1①	1								兼1
	新入生科目Ⅱ	工学基礎実験	1①③	2		12	10	1	5			
グローバル教養科目群	人文・社会科学科目	現代倫理論	1①③	2								兼2
		現代宗教論	1①③	2								兼2
		多文化共生論	1①③	2								兼1
		共生社会政策論	3①	2								兼1
		国際平和論	3①	2								兼1
		哲学	3③	2								兼1
		文学・芸術学	3③	2								兼1
		心理学	3③	2								兼1
		教育学	3①	2								兼1
		日本国憲法	1①③	2								兼1
	経済学	1①③	2								兼1	
	社会学	1①③	2								兼2	
	歴史学	1①③	2								兼2	
	理系教養科目	科学史	3③	2								兼1
		技術者倫理	3-4①	2								兼1
		知的財産権・特許法	2・3-4①	2								兼1
安全工学		1-2-3-4①	2								兼1	
	キャリア・プランニング	1-2-3①	2								兼1	
グローバル言語文化科目群	英語科目	Integrated English	1①	1			1					兼9
		Paragraph Writing	1③	1			1					兼11
		English Discussion	1③	1								兼9
		Essay Writing	2①	1			1					兼10
		English Presentation	2①	1								兼9
		English Reading	2③	1			1					兼9
		English Exam Preparation Course I	1①	1								兼6
		English Exam Preparation Course II	2-3-4②④	1								兼3
		English Exam Preparation Course III	2-3-4②④	1								兼1
		Academic Reading	3-4①	1								兼2
	Academic Communication	3-4③	1								兼1	
	第二外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1①	1								兼2
		ドイツ語Ⅱ	1③	1								兼2
		異文化理解のためのドイツ語	1③	1								兼2
		フランス語Ⅰ	1①	1								兼1
		フランス語Ⅱ	1③	1								兼1
		異文化理解のためのフランス語	1③	1								兼1
		スペイン語Ⅰ	1①	1								兼1
		スペイン語Ⅱ	1③	1								兼1
		異文化理解のためのスペイン語	1③	1								兼1
中国語Ⅰ		1①	1								兼4	
中国語Ⅱ	1③	1								兼4		
	異文化理解のための中国語	1③	1								兼2	
日本語科目	日本語初級	1-2-3-4③		1							兼1	
	日本語初級ステップアップ	1-2-3-4③		1							兼1	
	日本語中級	1-2-3-4③		1							兼1	
	日本語中級ステップアップ	1-2-3-4③		1							兼1	
	日本語上級	1-2-3-4①		1							兼1	
	日本語上級ステップアップ	1-2-3-4③		1							兼1	
グローバル展開科目群	グローバル先端科目	グローバル先端科目	3②	1								兼1
		農工協働科目	3②	1								兼1
		産学連携科目	2-3②	1								兼1
	教養発展科目	標準化	3-4②	2								兼1
		マーケティング	2-3①	2								兼1
		ベンチャービジネス論	2-3-4③	2								兼1
		プロフェッショナル実践法	3①	2								兼1
		3大学協働基礎ゼミ	1②	1								兼1
	Multidisciplinary Courses	Japanese Science and Technology	1-2-3③	2								兼2
		Intercultural Communication	1-2-3③	2								兼1
		Japanese Culture	1-2-3③	2								兼1
		Integrated Experience of Science and Technology	1-2-3③	2								兼1
		三大学連携特別講義Ⅰ	1-2-3②	1								兼1
	三大学連携特別講義Ⅱ	1-2-3③	2								兼1	
スポーツ健康科学科目群	スポーツ健康科学理論	1①	2								兼5	
	体力学実技	1①	1								兼5	
	生涯スポーツ実技	1③	1								兼5	
	小計(66科目)	-	11	78	6	12	11	1	5	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	工学共通	線形代数学Ⅰ	1①		2								兼1	
		微分積分学Ⅰおよび演習	1①		3								兼1	
		線形代数学Ⅱ	1③		2								兼1	
		微分積分学Ⅱおよび演習	1③		3								兼1	
	地学	地学	1①③、2・3・4①		2								兼1	
		地学実験	2・3・4①		1								兼1	
	数学・情報	統計学	1③		2								兼1	
		バイオコンピュータプログラミングバイオインフォマティクス基礎	2①		2		1							
		バイオ統計学・バイオインフォマティクス応用	2③		2		1							
	化学	化学基礎	1①		2								兼1	
	物理学	物理学基礎	1①		2				1					
		物理学Ⅰ	1③		2		1							
		物理学Ⅱ	1③		2				1					
		物理学Ⅲ	2①		2				1					
	生物学	生物学基礎	1①		2			1						
		基礎生物化学	1①		2				2					
		微生物学	1①		2		1							
		基礎生物学実験	1③		2		1	1						
	ライフサイエンス基礎	生命工学入門・医工学入門	1①		1			10	7					兼2
		生命倫理・安全管理	2①		1									兼2
		生命物理化学Ⅰ	2①		2		1	1						
		生命物理化学Ⅱ	2③		2		1	1						
		生命有機化学Ⅰ	1③		2			1						
生命有機化学Ⅱ		2①		2		1								
生命分析化学		2③		2		1								
生命無機化学		2③		2		1	1							
機器分析学		2①		2		1	3							
生命化学Ⅰ		1③		2		1	1							
生命化学Ⅱ		2①		2		1								
分子生物学Ⅰ		1③		2			1							
分子生物学Ⅱ		2①		2		1								
細胞生物学Ⅰ		2①		2			1							
細胞生物学Ⅱ		2③		2		1								
ライフサイエンス基礎演習Ⅰ		2①		2					1					
ライフサイエンス基礎演習Ⅱ		2③		2					1					
小計(35科目)	—		18	51	0	12	10	1	0	0		兼12		
専門科目	バイオサイエンス専門科目	生命工学の最先端Ⅰ	3①		1			2	4				兼1	
		生命工学の最先端Ⅱ	3①		1			3	2					
		生命科学英語Ⅰ	2③		1				1					
		生命科学英語Ⅱ	3③		1								兼1	
		蛋白質・核酸科学	2③		1	1		2	1					
		免疫学・抗体工学	3①		1			1	1					
		植物工学・蛋白質工学	2③		1			1	1					
		先端機器分析学	2③		1			2	1				兼4	
		理療/バイオテクノロジー/分子細胞工学	2③		1			1	1					
		生理医学	3①		1			1	1					
		細胞再生工学・細胞医学	3①		1			1	1					
		バイオセンシング	2③		1			1	1					
		ナノバイオエンジニアリング	3①		1								兼4	
	脳神経学	3①		1			1							
	バイオテクノロジー専門科目	生命工学の最先端Ⅲ	3①		1			2	1					
		生命工学の最先端Ⅳ	3①		1			4	2				兼1	
		生命技術英語Ⅰ	3①		1								兼1	
		生命技術英語Ⅱ	3③		1				1					
		メディカルケミストリー	2③		1	1		1						
		ケミカルバイオロジー	3①		1				1					
		バイオプロセスエンジニアリング	3①		1			2	0					
		食品・医薬品開発工学	3③		1			1	1					
		医療・組織工学	3①		1			1					兼4	
		レギュラーサイエンス	3③		1			2						
		応用生体電子工学・応用微生物学	3①		1					2				
		マリンバイオテクノロジー	2③		1				1					
	応用ゲノミクス	3①		1				1	1					
	実験・演習	生命工学実験Ⅰ	2①		4			2	3					
		生命工学実験Ⅱ	2③		4			5	1					
		生命工学実験Ⅲ	3①		4			4	2					
		生命工学実験Ⅳ	3③		4			12	10	1	5			
		生命工学研究概論	3③		6			12	10	1	5			
		生体機能工学演習Ⅰ	4①		1			6	6				兼1	
生体機能工学演習Ⅱ		4③		1			6	6				兼1		
応用生物学演習Ⅰ		4①		1			6	4				兼3		
応用生物学演習Ⅱ		4③		1			6	4				兼3		
生体機能工学実験Ⅰ		4①		1			6	6						
生体機能工学実験Ⅱ		4③		1			6	6						
応用生物学実験Ⅰ		4①		1			6	4				兼3		
応用生物学実験Ⅱ	4③		1			6	4				兼3			
小計(40科目)	—		38	19	0	12	11	1	5	0		兼14		
研究室体験配属	3③		2			12	10	1	5					
卒業論文	4通		8			12	10							
小計(2科目)	—		10	0	0	12	10	1	5	0				
小計(77科目)	—		54	70	0	12	11	1	5	0		兼23		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
工学部 共通 専門科目	研究インターンシップ	4②		2		12	10	1				兼1	
	工学部特別講義Ⅰ(環境科学Ⅰ)	1・2・3・4①②③④		2								兼1	
	工学部特別講義Ⅰ	1・2・3・4①②③④		2								兼1	
	工学部特別講義Ⅱ	1・2・3・4①②③④		1								兼1	
	小計(4科目)	—	0	7	0	12	10	1	0	0		兼2	
	国際科目	Japanese Science and Technology	3・4③		2								兼1
	International Cooperation of Science and Technology	3・4③		2									兼1
	Engineering for Sustainable Society	3・4①		2									兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0		兼2	
	小計(7科目)	—	0	13	0	12	10	1	0	0		兼4	
合計(150科目)	—	77	181	6	12	11	1	5	0		兼94		
卒業要件及び履修方法													
必修科目77単位、専門科目の選択必修科目から10単位以上を修得し、130単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:56単位(年間))													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・講義の実態に合わせるため科目区分の名称を「教養教育科目」から「教養科目」に変更。
- ・教育効果を高めるため「教養科目区分」の配当年次及び各学期の科目数を見直した。
- ・教養科目の講義の実態に合わせるため授業科目の名称を「Global Communication」から「Japanese Science and Technology」、「Language and Society」から「International Cooperation of Science and Technology」、「グローバル展開特別科目（特別講義）」から「三大学連携特別講義Ⅰ」、「三大学連携特別講義Ⅱ」へ変更。
- ・専門基礎科目の講義の実態に合わせるため授業科目の名称を「生命工学入門・医工学入門（基礎ゼミ）」から「生命工学入門・医工学入門」へ変更。
- ・専門基礎科目の教育効果を高めるため「ライフサイエンス基礎演習Ⅰ」及び「ライフサイエンス基礎演習Ⅱ」の配当年次を半年早めた。
- ・専門科目の実験時間数の見直しのため「生体機能工学実験Ⅰ」、「生体機能工学実験Ⅱ」、「応用生物工学実験Ⅰ」、「応用生物工学実験Ⅱ」を各1単位に変更。
- ・工学部共通専門科目の教育内容の充実のため「工学部特別講義Ⅰ（環境科学Ⅰ）」を追加。

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

- ・専任教員の退職、昇任、採用により、「工学基礎実験」、「生命工学実験Ⅳ」、「生命工学研究概論」、「研究室体験配属」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授12」、「准教授14」から「准教授10」、「助教4」から「助教5」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「卒業論文」、「研究インターンシップ」の専任教員等の配置を「教授9」から「教授12」、「准教授14」から「准教授10」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「生命工学入門・医工学入門」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授10」、「准教授10」から「准教授7」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「生体機能工学演習Ⅰ」、「生体機能工学演習Ⅱ」、「生体機能工学実験Ⅰ」、「生体機能工学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授6」、「准教授9」から「准教授6」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「生命工学の最先端Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の退職により、「食品・医薬品開発工学」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学実験Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授5」、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学実験Ⅲ」、「生命工学の最先端Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授4」、「准教授4」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「バイオ統計学・アドバンスバイオインフォマティクス」、「生命分析化学」、「細胞生物学Ⅱ」、「脳神経学」、「医療・組織工学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「応用生物工学演習Ⅰ」、「応用生物工学実験Ⅰ」、「応用生物工学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」、「准教授5」から「准教授4」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「細胞再生工学・細胞医学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「レギュラトリーサイエンス」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学の最先端Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授5」から「准教授4」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「バイオプロセスエンジニアリング」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「機器分析学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「先端機器分析学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授2」から「准教授1」に変更。

【令和4年度】

- ・専任教員の退職、昇任により、「工学基礎実験」、「生命工学実験Ⅳ」、「生命工学研究概論」、「研究室体験配属」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授14」、「准教授10」から「准教授7」、「助教5」から「助教4」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「卒業論文」、「研究インターンシップ」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授14」、「准教授10」から「准教授7」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「生命工学入門・医工学入門」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授11」、「准教授7」から「准教授5」に変更。
- ・専任教員の退職、昇任により、「生体機能工学演習Ⅰ」、「生体機能工学演習Ⅱ」、「生体機能工学実験Ⅰ」、「生体機能工学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授7」、「准教授6」から「准教授4」に変更。
- ・専任教員の退職により、「生物学基礎」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・専任教員の退職により、「レギュラトリーサイエンス」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・専任教員の退職により、「生命工学の最先端Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
- ・専任教員の退職により、「生命工学実験Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学の最先端Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授4」、「准教授4」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学実験Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「生命工学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「物理学Ⅱ」、「分子生物学Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「基礎生物化学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「基礎生物学実験」、「生命無機化学」、「生命化学Ⅰ」、「免疫学・抗体工学」、「細胞再生工学・細胞医学」、「バイオセンシング」、「応用ゲノミクス」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「応用生物工学演習Ⅰ」、「応用生物工学演習Ⅱ」、「応用生物工学実験Ⅰ」、「応用生物工学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授7」、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「機器分析学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」、「准教授3」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の昇任により、「先端機器分析学」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「准教授1」から「准教授0」に変更。

(注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
43 科目	100 科目	6 科目	149 科目	43 科目 [-]	101 科目 [1]	6 科目 [-]	150 科目 [1]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{149} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校舎敷地	232,569㎡ 237,007㎡	0㎡	0㎡	232,569㎡ 237,007㎡						
	運動場用地	46,341㎡	0㎡	0㎡	46,341㎡	土地の一部売却のため (2)					
	小 計	278,910㎡ 283,348㎡	0㎡	0㎡	278,910㎡ 283,348㎡	土地の一部売却のため (3)					
	そ の 他	174,920㎡ 179,358㎡ 180,899㎡	0㎡	0㎡	174,920㎡ 179,358㎡ 180,899㎡						
	合 計	458,268㎡ 462,706㎡ 464,247㎡	0㎡	0㎡	458,268㎡ 462,706㎡ 464,247㎡						
(2) 校 舎	専 用	131,534㎡ 131,484㎡ 131,494㎡ 131,488㎡ 131,288㎡	0㎡	0㎡	131,534㎡ 131,484㎡ 131,494㎡ 131,488㎡ 131,288㎡	平成30年8月府中地区5 号館の改修のため (元)					
	(131,534㎡)		(0㎡)	(0㎡)	(131,534㎡)	建物の一部改修のため (2)					
	(131,484㎡)				(131,484㎡)	建物の一部改修のため (3)					
	(131,494㎡)				(131,494㎡)	建物の一部改修のため (4)					
	(131,488㎡)				(131,488㎡)						
	(131,288㎡)				(131,288㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	73 85 83 77室	演 習 室	43 45室	実験実習室	530 517 513室	情報処理学習施設	8 10室 (補助職員 3人)	語学学習施設	0 (補助職員 0人)	建物の一部改修のため (元)
	建物の一部改修のため (2) 建物の一部改修のため (4)										
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数		平成30年8月専任教員1名 就任辞退のため(元)				
	工学部 生命工学科				27 29 30 室		令和4年1月専任教員1名 辞職のため(4) 令和4年3月専任教員1名 退職のため(4)				
(5) 新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	図書全体の共用分				
	[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル								
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点					
	工学部 生命工 学科	530,482 [176,338]	14,174 [7,038]	7,043 [6,402]	2,992	0	0	予算、電子ジャーナル 契約内容の変更により図書 等の購入計画を見直したため(2)			
計	530,482 [176,338]	14,174 [7,038]	7,043 [6,402]	2,992	0	0	予算、電子ジャーナル 契約内容の変更により図書 等の購入計画を見直したため(3)				
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		図書スペースの利用方法 を見直したため(2)				
	6,907㎡		944席 955席 956席 948席 897席		538,305冊 545,113冊 545,113冊 544,889冊		図書スペースの利用方法 を見直したため(3) 図書スペースの利用方法 を見直したため(4)				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
	2,477 ㎡		プール、野外競技場(弓道場、テ ニスコート7面)								
(8) 経費の見積り 及び維持方法 の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度				
	教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円				
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
学生納付金以外の維持方法の概要											

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え直し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東京農工大学					学生募集停止学科数	8	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
農学部											
生物生産科学科	4	57	—	228	学士(農学)	1.05	1.07	—	平成16年度	東京都府中市幸町三丁目5番8号	
応用生物科学科	4	71	—	284	学士(農学)	1.03	1.05	—	平成16年度	同上	
環境資源科学科	4	61	—	244	学士(農学)	1.06	1.13	—	平成16年度	同上	
地域生態システム学科	4	76	—	304	学士(農学)	1.03	1.01	—	平成16年度	同上	
共同獣医学科	4	35	—	210	学士(獣医学)	1.10	1.11	—	平成24年度	同上	
工学部			3年次70								
生命工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	令和31年度より学生募集停止
応用分子化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
有機材料化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
化学システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
機械システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
物理システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成16年度	同上	令和31年度より学生募集停止
生命工学科	4	81	3年次11	346	学士(工学)	1.04	1.08	—	平成31年度	同上	
生体医用システム工学科	4	56	3年次6	236	学士(工学)	1.05	1.07	—	平成31年度	同上	
応用化学科	4	81	3年次10	344	学士(工学)	1.03	1.03	—	平成31年度	同上	
化学物理工学科	4	81	3年次7	338	学士(工学)	1.04	1.02	—	平成31年度	同上	
機械システム工学科	4	102	3年次16	440	学士(工学)	1.04	1.06	—	平成31年度	同上	
知能情報システム工学科	4	120	3年次20	520	学士(工学)	1.02	1.03	—	平成31年度	同上	
大学全体	—	821	70	3494	—	—	—	—	—	—	

大学 の 名 称	東京農工大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	4	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
工学府 (博士前期課程)											
生命工学専攻	2	58	—	116	修士(工学又は学術)	1.16	1.10	—	平成16年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	
応用化学専攻	2	78	—	156	修士(工学又は学術)	1.04	1.06	—	平成16年度	同上	
機械システム工学専攻	2	70	—	140	修士(工学又は学術)	1.09	1.05	—	平成16年度	同上	
物理システム工学専攻	2	26	—	52	修士(工学又は学術)	1.15	1.11	—	平成16年度	同上	
電気電子工学専攻	2	66	—	132	修士(工学又は学術)	1.04	0.95	—	平成16年度	同上	
情報工学専攻	2	42	—	84	修士(工学又は学術)	1.06	1.04	—	平成18年度	同上	
工学府 (博士後期課程)											
生命工学専攻	3	14	—	42	博士(工学又は学術)	1.06	1.28	—			
応用化学専攻	3	14	—	42	博士(工学又は学術)	0.78	0.92	—			
機械システム工学専攻	3	13	—	39	博士(工学又は学術)	0.94	0.46	—			
電子情報工学専攻	3	15	—	57	博士(工学又は学術)	0.71	0.40	—			
工学府(博士課程)											
共同サステイナビリティ研究専攻	3	4	—	12	博士(学術)	0.58	0.25	—	平成31年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	
工学府 (専門職学位課程)											
産業技術専攻	2	40	—	80	技術経営修士(専門職)	1.09	1.12	—	平成23年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	
農学府(修士課程)											
農学専攻	2	174	—	348	修士(農学又は学術)	1.14	1.12	—	平成31年度	同上	
農学府(博士課程)											
共同獣医学専攻	4	10	—	40	博士(獣医学)	1.80	1.30	—	平成30年度	東京都府中市幸町三丁目5番8号	
生物システム応用科学府 (博士前期課程)											
生物機能システム科学専攻	2	59	—	118	修士(工学、農学又は学術)	1.15	1.13	—	平成27年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	
生物システム応用科学府 (博士後期課程)											
生物機能システム科学専攻	3	12	—	36	博士(工学、農学又は学術)	1.58	1.58	—	平成27年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	
生物システム応用科学府 (一貫制博士課程)											
食料エネルギーシステム科学専攻	5	10	—	50	博士(工学、農学又は学術)	0.68	0.30	—	平成27年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号	

生物システム応用科学府 (博士課程)												
共同先進健康科学専攻	3	6	—	18	博士(生命科学)	0.61	0.50	—	平成22年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号		
連合農学研究科 (博士課程)												
生物生産科学専攻	3	15	—	45	博士(農学又は学術)	1.13	0.93	—	平成19年度	東京都府中市幸町三丁目5番8号		
応用生命科学専攻	3	10	—	30	博士(農学又は学術)	0.43	0.40	—	平成19年度	同上		
環境資源共生科学専攻	3	10	—	30	博士(農学又は学術)	1.36	1.20	—	平成19年度	同上		
農業環境工学専攻	3	4	—	12	博士(農学又は学術)	1.25	0.75	—	平成19年度	同上		
農林共生社会科学専攻	3	6	—	18	博士(農学又は学術)	1.49	1.83	—	平成19年度	同上		
大学院全体	—	756	—	1697	—	—	—	—	—	—		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<工学部 生命工学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】	
			職名	担当授業科目名	職名	担当授業科目名	職名	担当授業科目名	職名	担当授業科目名
専 教授	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)	池袋 一典 (52) <平成31年4月> 博士(工学)
専 教授	小関 良宏 (62) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (62) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (62) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (62) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (63) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (63) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (64) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (49) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (49) <平成31年4月> 理学博士	小関 良宏 (49) <平成31年4月> 理学博士
専 教授	黒田 裕 (57) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (57) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (57) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (57) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (58) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (58) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (58) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (49) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (49) <平成31年4月> 理学博士	黒田 裕 (49) <平成31年4月> 理学博士
専 教授	田中 剛 (46) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (46) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (47) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (47) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (47) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (47) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (48) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (48) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (48) <平成31年4月> 博士(工学)	田中 剛 (48) <平成31年4月> 博士(工学)
専 教授	長澤 和夫 (53) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (53) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (54) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (54) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (54) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (54) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (55) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (55) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (55) <平成31年4月> 博士(工学)	長澤 和夫 (55) <平成31年4月> 博士(工学)
専 教授	中村 縉文 (55) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (55) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (56) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (56) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (56) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (56) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (57) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (58) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (58) <平成31年4月> 博士(理学)	中村 縉文 (58) <平成31年4月> 博士(理学)
専 教授	宮浦 千亜 (63) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士	宮浦 千亜 (64) <平成31年4月> 薬学博士

兼任・兼任の別	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名
		工学部特別講義Ⅰ 工学部特別講義Ⅱ		工学部特別講義Ⅰ 工学部特別講義Ⅱ						
兼任	野間 竜男 (60) ＜平成31年4月＞ 工学博士	教授	野間 竜男 (60) ＜平成31年4月＞ 工学博士	教授	野間 竜男 (60) ＜平成31年4月＞ 工学博士	教授	野間 竜男 (60) ＜平成31年4月＞ 工学博士	教授	野間 竜男 (60) ＜平成31年4月＞ 工学博士	教授
兼任	杉野 幹人 (44) ＜平成31年4月＞ INSEAD MBA Degree (フランス)	特任教授	杉野 幹人 (44) ＜平成31年4月＞ INSEAD MBA Degree (フランス)	特任教授	杉野 幹人 (44) ＜平成31年4月＞ INSEAD MBA Degree (フランス)	特任教授	杉野 幹人 (44) ＜平成31年4月＞ INSEAD MBA Degree (フランス)	特任教授	杉野 幹人 (44) ＜平成31年4月＞ INSEAD MBA Degree (フランス)	特任教授
		マーケティング		マーケティング						
兼任	任 利(郎) 任利 (44) ＜平成31年4月＞ 博士(言語学)	准教授	任 利(郎) 任利 (44) ＜平成31年4月＞ 博士(言語学)	准教授	任 利(郎) 任利 (44) ＜平成31年4月＞ 博士(言語学)	准教授	任 利(郎) 任利 (44) ＜平成31年4月＞ 博士(言語学)	准教授	任 利(郎) 任利 (44) ＜平成31年4月＞ 博士(言語学)	准教授
		中国語I 中国語II 異文化理解のための中国語		中国語I 中国語II 異文化理解のための中国語						
兼任	佐藤 健 (47) ＜平成31年4月＞ M.A(英国)	准教授	佐藤 健 (47) ＜平成31年4月＞ M.A(英国)	准教授	佐藤 健 (47) ＜平成31年4月＞ M.A(英国)	准教授	佐藤 健 (47) ＜平成31年4月＞ M.A(英国)	准教授	佐藤 健 (47) ＜平成31年4月＞ M.A(英国)	准教授
		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading						
兼任	宇野 良子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)	准教授	宇野 良子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)	准教授	宇野 良子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)	准教授	宇野 良子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)	准教授	宇野 良子 (45) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)	准教授
		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading						
兼任	岡野 一郎 (55) ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)	准教授	岡野 一郎 (55) ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)	准教授	岡野 一郎 (55) ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)	准教授	岡野 一郎 (55) ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)	准教授	岡野 一郎 (55) ＜平成31年4月＞ 修士(社会学)	准教授
		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading						
兼任	飛嶋 隆徳 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	准教授	飛嶋 隆徳 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	准教授	飛嶋 隆徳 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	准教授	飛嶋 隆徳 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	准教授	飛嶋 隆徳 (51) ＜平成31年4月＞ 修士(学術)	准教授
		フランス語I フランス語II 異文化理解のためのフランス語		フランス語I フランス語II 異文化理解のためのフランス語						
兼任	岩田 陽子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(社会科学)	准教授	岩田 陽子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(社会科学)	准教授	岩田 陽子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(社会科学)	准教授	岩田 陽子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(社会科学)	准教授	岩田 陽子 (46) ＜平成31年4月＞ 修士(社会科学)	准教授
		多文化共生論 グローバル化と異文化理解 プロフェッショナル実践法 Global Communication		多文化共生論 グローバル化と異文化理解 プロフェッショナル実践法 Global Communication						
兼任	吉田 央 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	吉田 央 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	吉田 央 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	吉田 央 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	吉田 央 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授
		共生社会政策論		共生社会政策論						
兼任	渡邊 司 (61) ＜平成31年4月＞ 法学修士	准教授	渡邊 司 (61) ＜平成31年4月＞ 法学修士	准教授	渡邊 司 (61) ＜平成31年4月＞ 法学修士	准教授	渡邊 司 (61) ＜平成31年4月＞ 法学修士	准教授	渡邊 司 (61) ＜平成31年4月＞ 法学修士	准教授
		国際平和論		国際平和論						
兼任	武田 庄平 (61) ＜平成31年4月＞ 学術修士	准教授	武田 庄平 (61) ＜平成31年4月＞ 学術修士	准教授	武田 庄平 (61) ＜平成31年4月＞ 学術修士	准教授	武田 庄平 (61) ＜平成31年4月＞ 学術修士	准教授	武田 庄平 (61) ＜平成31年4月＞ 学術修士	准教授
		心理学		心理学						
兼任	甲田 菜穂子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(人間科学)	准教授	甲田 菜穂子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(人間科学)	准教授	甲田 菜穂子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(人間科学)	准教授	甲田 菜穂子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(人間科学)	准教授	甲田 菜穂子 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(人間科学)	准教授
		心理学		心理学						
兼任	根本 弘行 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(法学)	准教授	根本 弘行 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(法学)	准教授	根本 弘行 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(法学)	准教授	根本 弘行 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(法学)	准教授	根本 弘行 (53) ＜平成31年4月＞ 博士(法学)	准教授
		日本国憲法		日本国憲法						
兼任	竹内 郁雄 (64) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	竹内 郁雄 (64) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	竹内 郁雄 (64) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	竹内 郁雄 (64) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	竹内 郁雄 (64) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授
		経済学		経済学						
兼任	本郷 智子 (59) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	准教授	本郷 智子 (59) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	准教授	本郷 智子 (59) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	准教授	本郷 智子 (59) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	准教授	本郷 智子 (59) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	准教授
		日本語初級 日本語中級 日本語上級 日本語上級ステップアップ Global Communication Language and Society		日本語初級 日本語中級 日本語上級 日本語上級ステップアップ Japanese Science and Technology International Cooperation of Science and Technology						
兼任	伊藤(早野) 夏実 (50) ＜平成31年4月＞ M.A(Linguistics)(米国)	准教授	伊藤(早野) 夏実 (50) ＜平成31年4月＞ M.A(Linguistics)(米国)	准教授	伊藤(早野) 夏実 (50) ＜平成31年4月＞ M.A(Linguistics)(米国)	准教授	伊藤(早野) 夏実 (50) ＜平成31年4月＞ M.A(Linguistics)(米国)	准教授	伊藤(早野) 夏実 (50) ＜平成31年4月＞ M.A(Linguistics)(米国)	准教授
		日本語初級 日本語中級 日本語上級 日本語上級ステップアップ Japanese Culture		日本語初級 日本語中級 日本語上級 日本語上級ステップアップ Japanese Culture						
兼任	田崎 敦子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士(人間科学)	准教授	田崎 敦子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士(人間科学)	准教授	田崎 敦子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士(人間科学)	准教授	田崎 敦子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士(人間科学)	准教授	田崎 敦子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士(人間科学)	准教授
		Intercultural Communication		Intercultural Communication						
兼任	下田 政博 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(理学)	准教授	下田 政博 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(理学)	准教授	下田 政博 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(理学)	准教授	下田 政博 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(理学)	准教授	下田 政博 (50) ＜平成31年4月＞ 博士(理学)	准教授
		スポーツ健康科学理論 体力学実践 生涯スポーツ実践		スポーツ健康科学理論 体力学実践 生涯スポーツ実践						
兼任	川端 良子 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	川端 良子 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	川端 良子 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	川端 良子 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授	川端 良子 (54) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)	准教授
		International Cooperation of Science and Technology		International Cooperation of Science and Technology						
兼任	Ruled Langgoro (60) ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	教授	Ruled Langgoro (60) ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	教授	Ruled Langgoro (60) ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	教授	Ruled Langgoro (60) ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	教授	Ruled Langgoro (60) ＜平成31年4月＞ 博士(工学)	教授
		工学部特別講義Ⅰ(基礎科学Ⅰ)		工学部特別講義Ⅰ(基礎科学Ⅰ)						
		法弁 俊一 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(農文化コミュニケーション学)	講師	法弁 俊一 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(農文化コミュニケーション学)	講師	法弁 俊一 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(農文化コミュニケーション学)	講師	法弁 俊一 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(農文化コミュニケーション学)	講師	法弁 俊一 (39) ＜平成31年4月＞ 博士(農文化コミュニケーション学)
		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading		Integrated English Paragraph Writing Essay Writing English Reading						
兼任	古矢 晋一 (42) ＜平成31年4月＞ Dr.phil.(ドイツ)	講師	古矢 晋一 (42) ＜平成31年4月＞ Dr.phil.(ドイツ)	講師	古矢 晋一 (42) ＜平成31年4月＞ Dr.phil.(ドイツ)	講師	古矢 晋一 (42) ＜平成31年4月＞ Dr.phil.(ドイツ)	講師	古矢 晋一 (42) ＜平成31年4月＞ Dr.phil.(ドイツ)	講師
		ドイツ語I ドイツ語II 異文化理解のためのドイツ語		ドイツ語I						

専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
						兼任	講師 田中 大一 (33) <令和4年4月> 修士(教育学) English Exam Preparation Course I
兼任	講師 富田 裕 (58) <平成31年4月> 文学修士 ドイツ語I ドイツ語II	兼任	講師 富田 裕 (58) <平成31年4月> 文学修士 ドイツ語I ドイツ語II	兼任	講師 富田 裕 (59) <平成31年4月> 文学修士 ドイツ語I ドイツ語II		
		兼任	講師 二重 拓人 (29) <平成31年4月> 博士(文学) ドイツ語II 異文化理解のためのドイツ語				
兼任	講師 浜下 賢 (48) <平成31年4月> 修士(学術) スペイン語I スペイン語II 異文化理解のためのスペイン語	兼任	講師 浜下 賢 (48) <平成31年4月> 修士(学術) スペイン語I スペイン語II 異文化理解のためのスペイン語	兼任	講師 浜下 賢 (49) <平成31年4月> 修士(学術) スペイン語I スペイン語II 異文化理解のためのスペイン語	兼任	講師 浜下 賢 (50) <平成31年4月> 修士(学術) スペイン語I スペイン語II 異文化理解のためのスペイン語
兼任	講師 南 勇 (61) <平成31年4月> 博士(学術) 中国語I 中国語II	兼任	講師 南 勇 (61) <平成31年4月> 博士(学術) 中国語I 中国語II 異文化理解のための中国語	兼任	講師 南 勇 (62) <平成31年4月> 博士(学術) 中国語I 中国語II	兼任	講師 南 勇 (63) <平成31年4月> 博士(学術) 中国語I 中国語II 異文化理解のための中国語
兼任	講師 黄 麗華 (61) <平成31年4月> 修士(文学) 中国語I 中国語II	兼任	講師 黄 麗華 (61) <平成31年4月> 修士(文学) 中国語I 中国語II	兼任	講師 黄 麗華 (62) <平成31年4月> 修士(文学) 中国語I 中国語II 異文化理解のための中国語	兼任	講師 黄 麗華 (64) <平成31年4月> 修士(文学) 中国語I 中国語II
						兼任	講師 李 雷 (36) <令和3年4月> 博士(教育学) 中国語I 中国語II
兼任	講師 加藤 義雄 (42) <平成31年4月> 博士(工学) ナノバイオエンジニアリング※	兼任	講師 加藤 義雄 (42) <平成31年4月> 博士(工学) ナノバイオエンジニアリング※	兼任	講師 加藤 義雄 (43) <平成31年4月> 博士(工学) ナノバイオエンジニアリング※	兼任	講師 加藤 義雄 (44) <平成31年4月> 博士(工学) ナノバイオエンジニアリング※
兼任	講師 津田 高次 (43) <平成31年4月> 修士(数理学) 線形代数学I					兼任	講師 神谷 亮 (30) <平成31年4月> 博士(数理学) 線形代数学I
						兼任	講師 神谷 亮 (31) <平成31年4月> 博士(数理学) 線形代数学I
兼任	講師 山岡 哲二 (56) <平成31年4月> 博士(工学) 医療・福祉工学※					兼任	講師 神谷 亮 (32) <平成31年4月> 博士(数理学) 線形代数学I
兼任	講師 岡 泰貴 (56) <平成31年4月> 博士(工学) 安全工学	兼任	講師 岡 泰貴 (56) <平成31年4月> 博士(工学) 安全工学	兼任	講師 岡 泰貴 (57) <平成31年4月> 博士(工学) 安全工学	兼任	講師 岡 泰貴 (59) <平成31年4月> 博士(工学) 安全工学
兼任	講師 深沼 光 (54) <平成31年4月> 修士(英語) ベンチャービジネス英語	兼任	講師 深沼 光 (54) <平成31年4月> 修士(英語) ベンチャービジネス英語	兼任	講師 深沼 光 (56) <平成31年4月> 修士(英語) ベンチャービジネス英語	兼任	講師 深沼 光 (57) <平成31年4月> 修士(英語) ベンチャービジネス英語
						兼任	講師 吉村 隆一郎 (62) <令和3年4月> 電気工学士 マーケティング
						兼任	講師 山崎 真弓 (63) <令和4年4月> 修士(人文科学) 日本医師会ステップアップ 日本歯中量ステップアップ
兼任	講師 原田 奈穂子 (57) <平成31年4月> 修士(異文化コミュニケーション) English Exam Preparation Course I						
兼任	講師 奥野 晶子 (55) <平成31年4月> 文学修士 English Exam Preparation Course I						
兼任	講師 野中 大輔 (33) <平成31年4月> 修士(文学) English Exam Preparation Course I	兼任	講師 野中 大輔 (33) <平成31年4月> 修士(文学) English Exam Preparation Course I				
兼任	講師 松中 義大 (48) <平成31年4月> 修士(教育学) English Exam Preparation Course I						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**属員時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等、実専、実(研)、実(研)、兼担、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

・平成30年8月宮原平助教辞職

【令和2年度】

該当なし。

【令和3年度】

・令和2年10月川野竜司教授昇任。
・令和2年10月齋藤美佳子教授昇任。
・令和2年10月中澤靖元教授昇任。
・令和2年10月野口恵一教授昇任。
・令和3年3月宮浦千里教授退職。
・令和3年4月田中正樹助教採用。

【令和4年度】

・令和3年8月新垣篤史教授昇任。
・令和3年10月浅野竜太郎教授昇任。
・令和4年1月前田義昌助教辞職。
・令和4年3月小関良宏教授退職。
・令和4年4月太田善浩教授昇任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
16 名	8 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
9	15	1	5	30	0	14	8	1	4	27	0
(9)	(15)	(1)	(4)	(29)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
14	10	1	5	30	0	14	10	1	5	30	0
[5]	[Δ5]	[-]	[-]	[-]	[-]	[5]	[Δ5]	[-]	[-]	[-]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{27} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	宮本 平	H30.8	必修	生命工学実験Ⅳ	①	H30.8転出のため就任辞退（元）			
				必修	生命工学研究概論	①				
				必修	研究室体験配属	①				
				必修	工学基礎実験	①				
合計（D）			後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任担当教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	助教	前田 義昌	R4.1	必修	生命工学実験Ⅳ	①	R4.1.31付け転出のため辞任（4）			
				必修	生命工学研究概論	①				
				必修	研究室体験配属	①				
				必修	工学基礎実験	①				
合計（F）			後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任担当教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）			後任補充状況の集計（E）+（G）							
辞任等した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{30} = \boxed{6.66} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	宮浦 千里	選択	食品・医薬品開発工学	①	R3.3.31付け65歳で定年退職(3)			
			必修	生命工学入門・医工学入門	①				
			必修	生命工学の最先端Ⅲ	①				
			必修	生命工学実験Ⅳ	①				
			必修	生命工学研究概論	①				
			必修	生体機能工学演習Ⅰ	①				
			必修	生体機能工学演習Ⅱ	①				
			必修	生体機能工学実験Ⅰ	①				
			必修	生体機能工学実験Ⅱ	①				
			必修	研究室体験配属	①				
			必修	卒業論文	①				
			必修	工学基礎実験	①				
2	教授	小関 良宏	必修	生物学基礎	②	R4.3.31付け65歳で定年退職(4)			
			選択	食品・医薬品開発工学	①				
			選択	レギュラトリーサイエンス	①				
			必修	生命工学入門・医工学入門	①				
			必修	生命工学の最先端Ⅲ	①				
			必修	生命工学実験Ⅲ	①				
			必修	生命工学実験Ⅳ	①				
			必修	生命工学研究概論	①				
			必修	生体機能工学演習Ⅰ	①				
			必修	生体機能工学演習Ⅱ	①				
			必修	生体機能工学実験Ⅰ	①				
			必修	生体機能工学実験Ⅱ	①				
必修	研究室体験配属	①							
必修	卒業論文	①							
必修	工学基礎実験	①							
選択	研究インターンシップ	①							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
2	人	必修	24 科目	必修	23 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
		選択	5 科目	選択	5 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	29 科目	計	28 科目	計	1 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の就任辞退及び定年退職後の予定科目については既存の専任教員が担当するため影響はない。学生には履修案内・時間割・掲示板等にて周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (3年)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 生命工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位数 1 2 4 単位 必修科目〇〇単位、選択科目〇〇単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 (〇㎡) b 自習室〇室 (〇㎡) c 図書〇〇冊	① 学生の専門性をより高めるため、必修科目(1科目・2単位)を追加。(別添〇「新旧対象表」参照) ② 〇〇の修学環境を改善するため、講義室、自習室をそれぞれ〇部屋(〇㎡)増やすとともに、図書も〇〇冊増書した。

該当なし

(注)・1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 グローバル教育院、保健管理センター、女性未来育成機構等で企画、全学「教育・学生生活委員会」で承認及び実施報告 b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 毎月1回 c 委員会の審議事項等 FDの目的、内容、実施方法について ② 実施状況 a 実施内容 ・新任教職員に対する自校理解、研究推進・教育概要に関する研修 ・大学のグローバル化を目指した教員向けの研修 ・「オンライン授業」に関する情報提供 ・新型コロナの影響等学生のメンタルヘルスの問題に関する研修 ・ハラスメント防止のための研修 ・ダイバーシティ推進のための研修 b 実施方法 ・全学の教員対象の内容の場合は、各部局の教授会や運営委員会等の開催前後の時間もしくはオンラインで実施。 ・特定の教員対象の研修については、該当教員を招集もしくはオンラインで実施。 ・「オンライン授業」に関する情報提供については、webページ上でマニュアルや質問への回答集、説明動画を公開 c 開催状況(教員の参加状況含む) ・全学の教員対象の研修については教授会前後に開催したことで参加率は高く、アンケート等によると総じて好評であった。 ・特定の教員対象の研修については、グループワーク等の参加型研修を行い、参加者からは好評を得た。 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ・今後も引き続き積極的にFDを推進していく。 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 前学期、後学期の2回実施している。(一部、4学期制に対応している) b 教員や学生への公開状況、方法等 集計した結果については、担当科目の教員にフィードバックを行い、必要に応じて個別対応を行っている。 学生に対しては全体の集計結果をホームページで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

計画通りに実施している。また、今後も設置の趣旨及び目的の達成に向けて教育研究活動を実施することとしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書〔中期目標・中期計画の進行状況等に係る自己点検・評価書〕を、令和4年11月に公表予定。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開。

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和6年度までに大学基準協会の認証評価（専門職大学院）を受審する予定。
- ・機関別認証評価については、令和9年度までに受審することを予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○東京農工大学グローバル教育院運営規則

(平成30年4月1日グ教規則第1号)

改正 平成31年4月1日グ教規則第1号 令和3年4月1日規程第15号

令和4年1月31日グ教規則第1号 令和4年5月16日グ教規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人東京農工大学組織運営規則第5条の2及び第8条に基づき、東京農工大学グローバル教育院(以下「教育院」という。)の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 教育院は、国際教育交流に関する全学的事業の推進及び支援、教養教育の企画及び実施、入試戦略及び支援、その他全学に係る教育に関する業務を実施するための組織として、東京農工大学での教育活動を通して、農学又は工学の専門性を持ち、教養豊かで国際社会において活躍できる人材を育成することを目的とする。

(事業)

第3条 教育院は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 国際教育交流プログラムの企画・運営・実施、海外の大学との国際共同プログラムの確立及び海外の姉妹校との連携強化の取組に関すること。
- (2) グローバル教養教育の方針策定・企画・運営・実施、学生の英語力向上支援、教育評価及びファカルティディベロップメント(FD)の実施に関すること。
- (3) 入試出題管理体制の支援、入試に関する諸事項の調査・解析、入試方法の改善・立案並びに入試広報・国際広報の企画及び実施に関すること。
- (4) その他学長又はグローバル教育院長(以下「教育院長」という。)が必要と認めた事業に関すること。

(教育院長)

第4条 教育院長は、教育院の業務を掌理する。

- 2 教育院長は、副学長又は教育職員の中から学長が任命する。
- 3 教育院長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、教育院長の任期の末日は、当該教育院長を指名する学長の任期の末日以前でなければならない。
- 4 教育院長が任期の途中で欠けた場合には、後任の教育院長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副院長)

第5条 教育院に、グローバル教育院副院長(以下「副院長」という。)を置く。

- 2 副院長は、副学長又は教育職員の中から学長が指名する者をもって充てる。
- 3 副院長は、教育院長を補佐し、教育院長に事故あるときは、その職を代行する。

- 4 副院長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、その任期の末日は、当該副院長を指名する学長の任期の末日以前でなければならない。
- 5 副院長が任期の途中で欠けた場合には、後任の副院長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第6条 教育院に、第3条各号に掲げる事業を実施するため、専任教員を置く。

(兼務教員)

第7条 教育院に、専任教員と協力して第3条各号に掲げる事業を実施するため、農学研究院又は工学研究院を本務としたまま教育院を兼ねて務める教員(以下「兼務教員」という。)を置くことができる。

- 2 兼務教員は、農学研究院又は工学研究院の推薦を受け、次条に規定するグローバル教育院運営委員会の議を経て、学長が発令する。
- 3 兼務教員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 兼務教員が任期の途中で欠けた場合には、後任の兼務教員の任期は、次条に規定するグローバル教育院運営委員会が個別に定めるものとする。

(運営委員会)

第8条 教育院の事業の運営のため、グローバル教育院運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置き、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育院の組織に関する事項
 - (2) 教育院の人事に関する事項
 - (3) 教育院の予算に関する事項
 - (4) 教育院の計画及び評価に関する事項
 - (5) その他教育院長が必要と認めた事項
- 2 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で構成する。
 - (1) 教育院長
 - (2) 副院長
 - (3) 工学府・工学部及び農学府・農学部から選出された教員 各2人
 - (4) 教育院から選出された教員3人
 - (5) その他教育院長が必要と認めた者
 - 3 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、教育院長をもって充て、副委員長は、副院長をもって充てる。
 - 4 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長が必要と認めた場合は、副院長が委員長を代理し、運営委員会を招集し、その議長となることができる。
 - 5 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
 - 6 運営委員会の議事は、別に定めのある事項を除き、出席委員の過半数の賛成をもって決するものとする。

7 運営委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(選考委員会)

第9条 教育院に、第8条第1項第2号に基づく教育院の専任教員の選考について審議するため、選考委員会を置く。

2 前項に規定する選考委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 教育院に関する事務は、関係部局の協力を得て、学務部学務課及び学務部入試企画課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、教育院の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年4月1日グ教規則第1号)

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和3年4月1日規程第15号)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和4年1月31日グ教規則第1号)

この規則は、令和4年1月31日から施行する。

附 則(令和4年5月16日グ教規則第1号)

1 この規則は、令和4年5月16日から施行する。

2 東京農工大学グローバル教育院における部会及びグループの組織並びに運営に関する要項(平成30年4月1日)は廃止する。